

消防団 安心・安全

まちの“要”

平成24年度

日野町消防団

入退団・昇任式を開催

4月7日(土)、林業センター

において、平成24年度日野町消防団入退団・昇任式が行われ、退団者30名、入団者30名、昇任者13名の辞令交付、感謝状授与等が厳粛に行われました。

新入団員を代表し、第1分団1班団員 相坂創志(あいさか そうし)さんが「宣誓書」を読み上げられ、消防業務の遂行を誓われました。

式典修了後は、日野消防署で基礎訓練を受講されました。

団員の皆さんは、いつ起こり得るかもしれない災害から、家族や地域住民の生命・財産を守るために、昼夜を問わずご活躍いただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



このたび長年消防団を支えていただきました方々が退団されることとなりました。

【退団される消防団幹部】

団長 吉澤郁一様(村井)
分団長 宇田照之様(川原)
分団長 田中忠一様(別所)



▲吉澤前団長に町長から感謝状の授与

感雑向綿

日野町長 藤澤直広

4月から始まったNHK連続テレビ小説「梅ちゃん先生」物語のスタートは、昭和20年8月15日。空襲で焼け野原になった東京が舞台。終戦の「玉音放送」が流れたその夜、これまで灯火管制で真っ暗だった街に灯りがともり、人の心にも灯りがともりました。

同時に、戦災孤児や食糧難問題など当時の社会の大変さも描かれています。戦争が終わり、日本が「戦争をする国」から「戦争をしない国」に、「軍国主義国家」から「民主主義国家」に一大転換し、人々は「新しい価値観」のもとで歩み始めました。こうした映像は、どうしても東北の被災地の状況と重なってうつります。

あの日から2度目の春を迎えました。この国は、苦難に立ち向かっていく被災地の人々の心に希望の灯りをもせているのだろうか。復旧は、スピーディーに進んでいるようには見えません。3・11を契機に一大転換しなければなりません。

「チエンジ」といえば2年半前の「政権交代」。今、その期待がかなわず閉そく感があります。「チエンジ」(新しい価値観)の根本は、何よりも人々の暮らしが大切にされる社会をつくること。今年も、そこかしこで行われる春祭り、村人が酒を酌み交わし、時がゆっくりと流れます。毎年のように祭りができることはありがたいこと。こうした人々の営みが大切にされる社会に一大転換するために力を合わせましょう。